

# IEEE R10 Student. YP. WIE Congress in Sri Lanka 2015

## 参加報告書レポート

北海道大学 大学院情報科学研究科 メディアネットワーク専攻  
札幌支部 北海道大学 SB 稲月 孝裕

### 1. 概要

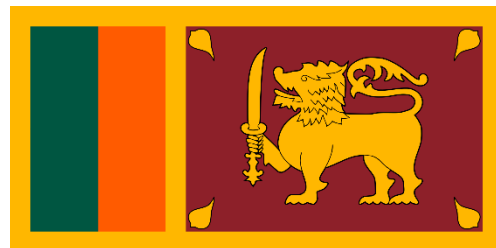
IEEE のアジア・太平洋地域の国々から構成される Region10(以下 R10)は 57Sections,582 Student Branches, 6Councils による約 73,000 人もの会員が所属しており、世界最大規模である。私は北海道大学の Student Branch(以下 SB)の代表として 2015 年 7 月 9 日(木)から 12 日(日)の 4 日間スリランカのコロomboに派遣されることになった。市内中心部に位置する Hotel Galadari が会場とし Student, YP, WIE など多くの参加者の交流の場となった。本稿ではスリランカという文化が全く異なる地域での参加を背景に、Congress の参加に至るまでから実際に参加して感じた事・後輩へのフィードバックなど写真を交えて綴っていく。

### 2. 参加の動機

私は本 Congress を通じて多くの IEEE 会員との国際交流による意見交換や研究に対するモチベーションを肌で感じる事、IEEE Japan Section 及び Sapporo Section のプレゼンス高める事を目指していた。自分自身学生時代に経験した、海外での研究と IEEE 北海道大学の SB のチェアとしての活動を経て、異なる考えや言語を持つ人と意見を交換し共有する事の難しさと出来た時の強い達成感の両方を感じることが出来た。その中で本 Congress に参加することで今後の自分自身の研究や SB の活動に良い影響を与えると確信した。勿論、以上の背景が参加動機であるが、開催地がスリランカであるのも大きな要因だった。私自身、紅茶と首都の名前が長い事しか知らないような観光でも訪れたことのない未知の国だからこそ自分自身の好奇心が参加を決意した動機でもあった。

### 3. スリランカについて

スリランカ(スリランカ民主社会主義共和国)は南アジアのインド亜大陸の南東にポーク海峡を隔てて位置する共和制国家である。首都はスリジャヤワルダナプラコッテ、コロomboは経済の中心地として栄える。1948 年までイギリスの植民地だったことから紅茶(セイロンティー)が有名である。



図：スリランカの国旗

私は 7 月 9 日の羽田空港発の JAL 便にてバンコク・スワンナプーム空港を經由しコロomboに到着した。

#### 4. スケジュール

7月9日(木)

- 13:00~ Lunch
- 14:00~ Site visit
- 16:30~ Ice breaker and term activities
- 17:30~ Tea
- 18:00~ Preparation for congress opening
- 19:00~ Congress opening remarks
- 19:45~ Intro to setup and events
- 20:00~ Dinner and networking

7月10日(金)

- 06:30~ Breakfast
- 08:00~ Keynotes (5 talks in total)
- 10:30~ Tea
- 11:00~ Workshops (4 workshops in total)
- 13:00~ Lunch
- 14:00~ Workshops (3 workshops in total)
- 15:30~ Tea
- 16:00~ Keynotes (2 talks in total)
- 17:30~ Preparation for awards night
- 18:30~ Awards night with SL cultural performance followed by dinner

7月11日(土)

- 06:30~ Breakfast
- 08:00~ Keynotes (5 talks in total)
- 10:30~ Tea
- 11:00~ Workshops (4 workshops in total)
- 13:00~ Lunch
- 14:00~ Workshops (3 workshops in total)
- 15:30~ Tea
- 16:00~ Keynotes (2 talks in total)
- 17:30~ Preparation for multicultural night
- 18:30~ Multicultural performance & exhibition

19:45~ Group photo

20:00~ Dinner

7月12日(日)

- 06:30~ Breakfast
- 08:00~ Keynotes (3 talks in total)
- 09:30~ Panel discussion
- 10:30~ Tea
- 11:00~ Workshop
- 11:30~ Closing ceremony
- 12:30~ Sharing gifts and depart
- 13:00~ Lunch
- 14:00~ Site visits and airport transfers

#### 5. Congress 内容

本 Congress は Today's Youth for a Better を題目に 4 日間の日程では全体で執り行われる Keynotes の他、Student, YP, WIE と複数 Track に部屋を分かれたワークショップも開催されていた。この章では Student として参加した私の目線より印象に残ったいくつかのプログラムを紹介する。



図 : Hotel Galadari の入り口前

初日に行われたアイスブレイキングではその人々の熱気を肌で感じる事が出来た。複数のチームに分かれ、各々のチームに与えられた各国の民族衣装の特徴などを議論する。相手のチームはその情報を基に紙と

テープを駆使し、より正確に民族衣装を再現するというゲームだ。私たちのチームでは韓国の伝統衣装を再現しようと誰もが主体的となって行動していたと感じた。しかしながら途中までルールをあまり把握していなかった私は比較的受け身の姿勢になってしまったことを反省していた。



図：チームで製作した民族衣装



図：ワークショップの様子



図：チームでの写真

2日目に開催された **Keynote** の一つである”**Networking Be a Better Performer**”のセッションでは **IEEE** の活動の基礎であるネットワークの必要性やどのようにネットワークの機会を創出するかについて議論した。ネットワークの必要性に関しては「人々の生活を豊かにするため」「一人で学ぶ事には限りがある」など意見が出た。一方、機会創出の場に関しては「友達の誕生日」「SNS」「**IEEE** を含めたボランティア活動」「社会に出る事」など意見が出た。特筆すべきは200人前後の参加するこのセッションで堂々と発言する海外の学生のやる気に圧倒された事だった。重要なのは英語の能力ではなく、主体的に会議に参加、自分の意見を強く押し通す事なのではないかと改めて勉強する事が出来た。

3日目で印象に残ったセッションは **Prof. Michael Lightner** 氏による”**Humanitarian activities in IEEE**”だった。このセッションでは自然災害・人的災害・経済格差など人類が直面するいくつかの課題に対して人的援助・経済援助などの手法についての説明を踏まえた上で **IEEE** では人道主義プロジェクトに関心のある人々によって構成される大規模なグローバル組織であると位置づけつつも災害援助の寄付をしていない事、**Region** によって活動が異なる事を強調した。その中で2010年に **IEEE** と **ASME**(米国機械学会)が連携をとり **E4C(Engineering for Change)** という名の人的援助・経済援助の両方を活動領域とする組織の設立に合意した。以上のセッションを通じて学問の発展の為に **IEEE** の価値観が大きく変わったと共に **IEEE** の活動に関してさらに勉強する必要があると感じた。



図：セッションの様子

4 日目でのセッションでは Dr. Ajith Amarasekara 氏による”Preparing yourself to be a global employee”が印象的だった。日本を含め世界の企業でグローバル化が加速する中自分自身がグローバル人材になるヒントを説明するセッションであった。異なる文化や価値観を持つ人々と上手に仕事をするためには「相手の文化を知る事」「自分に自信を持つこと」「専門家とのネットワークを構築する事」を軸に相手とのコミュニケーションが必要である事を訴えていた。エンジニアの国籍が多様だからこそもっと互いに尊敬し理解する事が必要であると氏は語っていた。

#### 6. 5.以外で学んだ事・後輩等に伝えたい事

本 Congress には各国の学生と交流する場が多く、ワークショップ以外にもティータイムやホテル内での会話、カルチャーセッションなどでは多くの学生との交流が経験できた。私が期待していた意見交換や研究に対するモチベーションを肌で感じる経験は全てこれらの国際交流にあったと感じる。ホテルに到着して間もなく Registration とチェックインを済ませた後、私は隣接するプールに行き明治大学の津村君と東京理

科大学の安井君の 3 人と有意義な時間を過ごした。というのもスリランカはインドの南東に位置し海洋からの激しい海風により湿度が高く北海道に住む私にとって外出するのが億劫になるほどだった。海岸沿いは波が非常に高い影響から立ち入る事が出来なかったのもプールを頻繁に利用した理由でもあった。



図：部屋からの眺望



図：ホテル内のプール

全体を通して感じたのは、Congress のタイムテーブルも基本的に 30 分から 1 時間は遅れて進行している事だった。しかし、それにも拘らず時間を厳守しているのは日本人くらいだったと感じた。その他ホテルに関して言及すると Wi-Fi が非常に弱く接続するのにフロントまで足を運ぶ事が多かった。ルームキーが毎回誤作動を起こし、持っているカードキーが使い物にならなくな

る事もあった。加えてホテルの料理は毎回カレーが登場し腹痛になるなど、正直日本での生活を比較すると不便と感じる時が多かった。逆にこれがスリランカという国なのだと私は感じた。同時にその文化を受け入れ、溶け込む事が必要だと確信した。それ以降は必要以上に請求されたり常軌を逸した運転をするタクシーに乗せられたりしても文化の違いとして楽しむ事が出来た。



図：Hotel Galadari 全景

また、日程の殆どがホテル内で執り行われた事から多くの友人との交流が経験できた。その多さに圧倒されインド人なのかパキスタン人なのかスリランカ人なのかバングラデシュ人なのか困惑する事も多かったが、共通して言えるのがどの学生も積極的に相手を知ろうとし、英語が上手でない私にきちんとレベルを合わせて会話している印象だった。その為私も仲間に入って会話を楽しむ事が出来た。



図：ティータイムでの写真



図：Awards night での写真

特に **Culture Night** では日本が最も目立った瞬間だった。自国の文化を紹介するコーナーには習字や折り紙や漫画、駄菓子やワサビ・抹茶など外国人が想像する日本の文化を用意した甲斐があったのか 12 時を過ぎても参加者がいなくなるほどの人気であった。私はパキスタンのコーナーを訪れ、ヘナタトゥーという「ヘンナ」という染料を用いた主に女性の体に施される入れ墨に挑戦した。相手の文化を知る以上に日本の文化を英語で説明する事の難しさを感じながらも、真剣に聞き入る多くの参加者を見て、非常に有意義な時間になったと感じる。



図：民族衣装をまとったメンバー



図：Culture Night での写真



図：日本の文化紹介コーナー

また、各国の音楽を披露するパフォーマンスにおいて日本は沖縄の三味線を用いた島唄の生演奏に挑戦した。前日の夜から練習する程の気合いの入った演奏でWIEのチェアと勤める橋本 隆子さんにも登壇して頂き一緒になって熱唱する事が出来た。素晴らしい演奏をして頂いた Tokyo YP の西宮先生にはこの場で感謝致します。演奏披露後に感じたのは日本に比べて他国の演奏には派手さがあった事であった。実際に私はインド人のダンスにハマってしまい、見知らぬ人と音楽を楽しんでいて気づけば深夜になるくらいだった。もし次回以降に演奏するのであれば日本の文化に即しながらも盛り上がる演奏を期待したい。

次回の Congress に参加を希望している

学生へのアドバイスとしては自国の文化や習慣を良く知る事と相手が誰であっても自分の意見を強く主張する気概を持つ事を大切にしてほしい。私は英語力の話ではないと感じた。勿論、話せる方がコミュニケーションには不自由ないのだが、相手に伝える知識がないのであれば本末転倒だ。日本人には空気を読むような文化も存在するが相手は何もわかってくれない。自ら主張し、時には自分の意見を押し通すくらいの気概を持って臨むことが出来ればこの本 Congress をもっと有意義な時間にする事が出来ると確信した。是非後輩諸君には日本を代表しているという気持ちをもって参加を決断してほしいと願っている。



図：Japan Council による島唄の披露

## 7. 観光について



図：ホテルに到着

空港から市内までの移動は主にタクシーを手配すれば勝手に連れて行ってくれる。40分程度でホテルに到着するほどの距離である。**Congress** は終日ホテル内での開催なので観光する時間を確保するのは難しかったが、合間を縫ってタクシーをチャーターした観光をする事は出来た。コロンボは比較的裕福な家庭が多く私たちがお土産を買おうと向かったショッピングセンターは日本と物価がそれほど変わらなかった。



図：ガンガラーマ寺院



図：独立記念碑の前



図：昼食をとった街角のレストラン

写真の通り、非常に短い時間での観光であったためスリランカ・コロンボという街を完全に知ることは出来なかったものの地元の人が集まる海外沿いの道では人々の温かさに触れることが出来た。後になって知ったことだが、**Congress** 終了後インド人の友人の **Facebook** を見るとコロンボの各地を旅行している写真を見ることが出来た。聞くとところによると観光を含めて航空券を取っているのだ。私たちもそのような考えがあればスリランカという国を 120%楽しむ事が出来たのかもしれない。



図：海外沿いの風景



図：偶然居合わせた子供達

短い時間にも関わらず非常に密度の濃い時間を過ごすことが出来たのも日本のメンバーがいたからこそだと思う。私は唯一 **Sapporo Section** からのメンバーでほとんどのメンバーが初対面であった。仲良くで

きるのか出国前は不安な気持ちになっていたものの、周囲の方々も同様に私を知ろうとする気持ちが伝わってきたのが非常に嬉しかった。異なる **Section** の方々と意見を交わす事が出来たのも本 **Congress** に参加して勝ち取った経験だと確信している。

その他

最後に本 **Congress** に参加するにあたり様々な情報を提供して頂いた大越先生、皆様並びに参加助成金を出して頂いた **Japan Council** 及び **Sapporo Section** の方々にこの紙面を借りて深く感謝いたします。



図：本 **Congress** に参加したメンバーとの集合写

2015年7月22日

## IEEE Region10 Student.YP.WIE Congress 2015 参加報告書

### -Japan Council Women in Engineering-

IEEE Japan Council WIE Vice Secretary  
IEEE Tokyo Young professionals WIE Liaison  
永島寛子

#### 1. 概要

IEEE Region 10 Student.YP.WIE Congress はアジア・パシフィック地域 (Region 10) の学生・若手技術者を対象に、お互いのネットワークを深め、知識の共有と自己研鑽を行う場として2年に1度開催されている。2002年から続く IEEE 最大の、Student Branch, Young professionals (以下 YP) , Women in Engineering (以下 WIE) 共催イベントである。8 回目にあたる今回は「Today's Youth for a Better Tomorrow」をテーマにスリランカのコロンボで開催された。参加者は全体で 250 名以上、日本は Tokyo・Kansai・Sapporo・Shikoku セクションから合わせて 12 名参加した。



開催場所：ガラダリホテル (スリランカ、コロンボ) ※ 同ホテルに宿泊

開催日時：2015/7/9～7/12

参加費：200USD

スケジュール概要：

7/9	夕方	Ice breaker・開会式
7/10	AM-PM	IEEE の紹介/現状など、Student/YP/WIE Track
	夜	Gala Night(授賞式)
7/11	AM-PM	複数の講演が同時進行
	夜	Multicultural Night
7/12	AM	閉会式

ドレスコード：

2 日目の Gala Night はビジネスフォーマルな格好でとの指定あり

3 日目の Multicultural Night は国の衣装でとの指定あり

その他のセッションは特に規定はなく、カジュアルな格好で問題なし

## 2. 全体

大ホールでの講演でも講師が聴講者に意見を求めると次々に声が飛び交い、全体を通じて活気があるセッションが続いた。2日目の朝のネットワーキングについて考える講演は、一言でネットワーキングと言っても新たな出会いを求めるネットワーキングもあれば、今知っている人との親睦を深めるネットワーキングもあり、本 Congress 中に1人でも多くの人とネットワーキングをするというモチベーションを上げるのに最適な講演だったと思う。その他、IEEE Vice President の Lawrance Wong 氏による IEEE Region 10 会員のデータや IEEE WIE Chair の Takako Hashimoto 氏による WIE 活動紹介など、今まであまりデータで見ることがなかった IEEE を知ることができた。今年5月に開催された WIE International Leadership Conference の報告と来年の開催が決定したことも発表された。

全講演の中で最も印象に残った講演は「自信を持つこと」そして「テクニカルリーダーとして挑戦すること」というメッセージを下された Ajith Amarasekara 氏の「Preparing yourself to be a Global Employee」である。本 Congress のテーマである「Today's Youth for a Better Tomorrow」に非常にマッチした講演で、今後エンジニアとして仕事していく上での心構えを見直せた。2003年から2010年の間に人口の数を超えたスマート機器のマジックナンバーは500億と言われているなど、ソフトウェア開発に携わる身として非常に興味のある内容だった。

## 3. Ice breaker

4チーム対抗のゲームを2つ実施（2つの部屋に分かれて行ったが、別の部屋の参加者に聞いたところ内容は同じだった模様）。紙を飛び石に見立てて上を歩くゲームとある国の民族衣装を紙で作成するゲームを行った。民族衣装を作成するゲームでは写真を見てはいけないため、チームメンバと意見を出し合い、一気に距離を縮めることができた。本ゲームで韓国の衣装を着たおかげで、Congress 中に「Hey, Korean」と声をかけられることもあり、話のきっかけになったと感じている。



#### 4. WIE Track

Region 10 WIE Coordinator の Supavadee Aramvith 氏による Region 10 内での WIE の現状の説明の後、ワークショップとパネルディスカッションが行われた。ワークショップでは、5-6 人のチームに分かれ、チームメンバが興味を持つプロジェクトを成功させるためのアクティビティ・スケジュール・リソースを議論した。私達のチームは「WIE 会員獲得プロジェクト」を考え、セミナーや観光を通じて参加者を集め、最終的に会員数を 100 人以上増やすというプロジェクトを発表した。特にプロジェクト内容に制限はなかったため、医療や健康についてのプロジェクトを発表していたチームもあった。WIE Track の間にシルバースポンサー企業の方がアジアの女性を対象としたアンケートを採っていたのを見て、本 Congress が幅広い国の意見を聞ける場であることを再認識した。

また Region 10 各国の WIE が集まるため、Supavadee Aramvith 氏の呼びかけの下、Region10 WIE Chair Meeting が開催された。各セクションの代表が活動を報告する中、Japan Council 設立 10 周年記念バッチを配布したところ、多くのお祝いの言葉をいただくことができた。ここから Japan Council WIE の活動と Region 10 各国との連携に繋げていければと思う。

タイムスケジュールには「Demonstrate posters related to IEEE activities by SBs, YP and WIE sections」と記載されていたが、運営側に尋ねたところ今回ポスター掲示は Student のみとのことで、JC WIE の掲示は行わなかった。

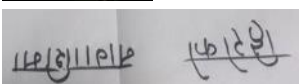


## 5. Gala Night(Awards Night)

スリランカの伝統的な踊りで開幕した。各国の「Hello」を繋いで作成した「Say-Hello」ムービーも授賞式の始めで流れた。事前に日本のムービー作成依頼があったため作成していたことは知っていたが、完成版は各国の特色がわかるムービーだったと思う。IEEE に貢献した Region 10 メンバーが呼ばれていく中、日本からの受賞者はいなかった。



## 6. Multicultural Night



文化交流セッションとして、最終日の夜に開かれた。開催国スリランカのボランティアによる演奏や歌の後、事前登録していたチームが舞台上がり、歌や踊りを披露した。踊りは観客から参加者を募るものが多く、当初予定として言われていた1チーム3分を超える盛り上がりだった。日本は沖縄の楽器で演奏して島唄を唄った。

展示ブースでは駄菓子やわさび、けん玉、折り紙、書道などを展示・実演した。特にわさびと書道は人気で、わさび味の菓子は気が付けばなくなっており、書道は自分の名前だけではなく家族の名前を書いて欲しいという人も多く、最後にはホテルのスタッフも並ぶほどに大盛況だった。集計したところ、240枚以上半紙を使っていたことがわかった。漢字で名前を書いたお礼にと、私の名前をヒンディー語とベンガル語で書いて貰った（写真はヒンディー語）。

## 7. 終わりに

技術に国境はないということを実感することができた4日間だった。本 Congress に参加することで、スリランカはもちろん、マレーシアやインドのセクションの IEEE メンバーと交流することができた。今後は Japan Council WIE Committee メンバーとして、日本国内のみならず海外と連携し、活動を発信していけるようになりたい。

また、Women in Engineering には男性は入れないと思っている人も少なくなかった。Japan Council WIE の男性会員の存在を発信することで、会員数増加に繋げていければと思う。



以上

## 1 概要

IEEE Region 10はIEEE全体の43万人のうち約11万人の会員数を占めている (57 Sections, 6 Councils, 958 Student Branches)。その中からStudent, WIE, YPから'Today's Youth for a Better Tomorrow'というテーマのもと集まり国際交流を行った。期間は7月9日から7月12日までの4日間であり、スリランカ コロンボのGaladari Hotelで開催された。

## 2 全体的な印象・感想



国際交流を行うことに加えて、Congressを通じてIEEEの素晴らしさを再確認することができた。コミュニケーションを取るにはほとんど英語を用いたが、中国語が少し出来たので中国や台湾の人とより仲良くなれた。インドの方はスリランカの隣にありSBの数も多くCongressの参加者のかなりの割合を占めていた。セミナーの内容がためになるのに加えて、セッションや食事の時間などで様々な人と交流できることができてとても良かった。スリランカの方はのんびりしている傾向があり全体的にスケジュールが遅れがちで、1、2時間ずれることもあった。スリランカの印象としては、道にはほとんどゴミは落ちておらず全体的に清潔であった。自動車の運転は丁寧とは言えなく、怖いと思ったときもあった。入国審査はビザを提出し、滞在目的と期間を答えただけで終わり、想像よりも厳しくなかった。

## 3 会場の環境

Galadari Hotelは落ち着いた良い会場であった。前回のCongressは部屋は外国の人と一緒にダブルベットだったと聞いていたが、ツインベットだったので安心した。私のルームメイトはインド人であった。おそらく、国籍がかぶらないように部屋を割り当てているのだと思う。人によっては1部屋を3人で使い、ツインベッドとエキストラベッドである場合もあった。また、3つのカードキーのうち、一度に2つしかアクティベートできず不便なところもあった。会場内の冷房が非常に強く体調を崩してしまう人もいた。ホテルの部屋もそうで、私が入った際にはなんと15度に設定されていて寒かった。日本の節電で寒さに慣れていない人は注意する必要がある。食事は、朝昼晩のご飯に加えて、午前午後にお茶の時間があった。どれもbuffestailで美味しく自由に食べることができ、楽しめた。

## 4 各セッション

Dr. Rajesh Ingleの"Importance of IEEE Student membership & R10 SAC initiatives"では、R10におけるSBの現状や課題について語られた。Dr. Amit Kumarの"Volunteering & Internship Experience"では、ボランティアとインターンシップの例だけではなく、今後のキャ

リアとしてどう利用すれば良いのか具体的に説明してくれて参考になった。Amir Zahoor の”What’s in IEEE for me?”では講演を聞いて後、グループに分かれてディスカッションを行い、最終的にはチームごとに発表を行った。これはSBLTWにスタイルに似ていた。皆がどういったモチベーションでIEEEに参加しているのか、なぜ続けているのかなど意見を共有することができ有意義であった。また、SBの活動報告をポスター発表で行った。私自身は、講演発表しかやったことがなく、今回初めてポスターで海外の方と会話することができて良い経験になった。

## 5 Multicultural Night



3日目の夜では、自分の国の文化を紹介するMulticultural Performance & Exhibitionがあった。私たちは、ステージでは着物や甚平を着て島唄を歌い、ブースでは習字・剣玉・折り紙などを披露した。習字で名前を書いて上げるサービスが特に人気で22時に終わるはずが、午前1時過ぎまで賑わっていた。ステージ上で島唄を歌ったのが今回最も印象に残っていることである。

## 6 終わりに

SB、YP、WIEの会員の方々と国境を超えて交流できたことは非常に良い経験になった。IEEEについてより深い理解を得て、改めて素晴らしさを実感することができた。各国の参加者からは様々なことを学ぶことを出来た。この経験を生かし、SBの活動をより活発化させ、日本だけにとどまらず海外でも今後ますます活躍したいと考えている。

